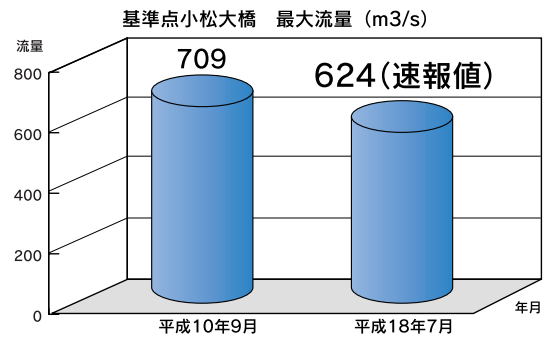


# ○河川改修の効果

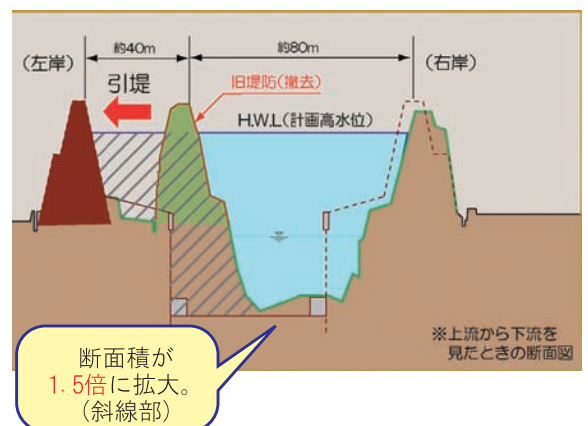
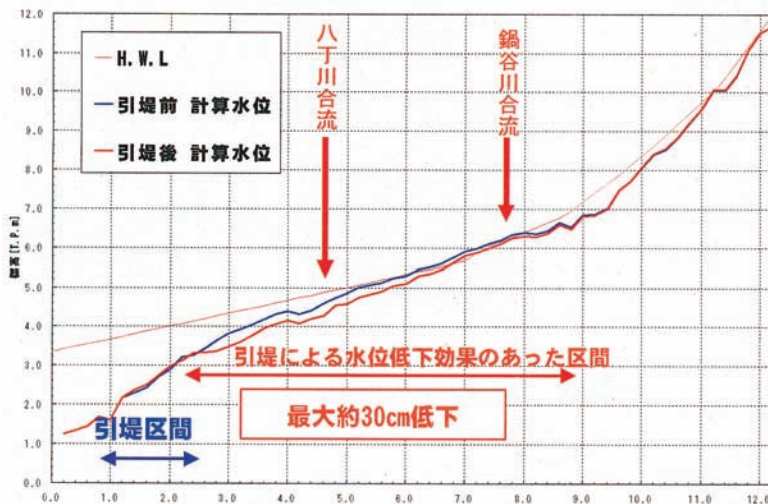
## ●梯川 小松地区改修

- ・ 梯川は現況流下能力が約500m<sup>3</sup>/sであり、計画の半分程度（治水安全度1/3）しかないため、順次下流側より引堤改修を実施しています。
- ・ 平成17年5月までに城南橋上流左岸の約1.5km区間の引堤が完了しました。
- ・ この左岸引堤により、既往最大洪水の平成10年9月洪水規模の出水に対して治水安全度を向上させました。（整備区間の安全度を向上させた他、整備区間の上流でも最大40cmの水位低下が期待できます。）
- ・ 平成18年7月17日の出水においても、最大約30cmの効果があったと推測されます。



平成18年7月17日洪水における梯川引堤 改修効果

改修断面図



## ●白山砂防

平成18年7月豪雨による手取川上流域での土砂災害発生状況や砂防施設の状況等について、上空からの調査を平成18年7月25日(火) 12:30~15:30に実施した。

### ①調査実施地区

手取川上流域（牛首川流域、尾添川流域）

### ②調査結果

- ・小規模な崩壊は数カ所見られた。
- ・天然ダム（河道閉塞）の形成は見られなかった。
- ・土砂災害につながるような大規模な崩壊、土石流の痕跡は確認されなかった。

### ③金沢河川国道事務所での対応状況

昭和9年手取川大洪水を上回る降雨を記録していたため、7月16日から警戒体制で手取川上流域の監視カメラ等により監視を強化した。

上空からの調査により、安全が概ね確認できたため、7月25日18時をもって体制を解除した。7月19日から別当出合より上流の工事用道路及び工事現場の安全確認を行った後に、工事の再開及び既存の砂防堰堤等の被災状況の確認調査を行った。

その結果、尾口砂防出張所管内では、尾添川第2号に向かう工事用道路の平成17年度施工の仮橋左岸側橋台が流出していた。

白峰砂防出張所管内では、甚之助資材運搬道路の別当谷右岸下流側で、小規模な土砂崩落があった。



大雨後の手取川上流域の様子（別当谷）  
（平成18年7月25日撮影）



尾添第2号工事用道路仮橋流出



甚之助資材運搬道路土砂崩落